

再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：国道・防災課

担当課長名：鈴木 克宗

事業名 ：一般国道57号（中九州横断道路） <small>おおのたけだ</small> 大野竹田道路	事業 ：一般国道 区分 ：	事業 ：国土交通省 主体 ：九州地方整備局 延長 ：約12km												
起終点 ：自：大分県豊後大野市大野町 <small>ぶんごおおの おおの</small> 至：大分県竹田市														
事業概要 ： 中九州横断道路は、大分市、熊本市を中心としたそれぞれの都市圏を相互に連絡し、両県の交流を促進するとともに、沿線地域の産業発展、地域活性化に寄与することを目的とした道路である。大野竹田道路は、その一部を構成する延長約12kmの自動車専用道路である。														
H - 年度事業化 （H12年度着工準備）	H - 年度都市計画決定	H - 年度用地着手												
H - 年度工事着手														
全体事業費 ：331億円 事業進捗率 ：1% 供用済延長 ：0km														
計画交通量 ：16,800～19,200台/日														
費用対効果 分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">B / C</td> <td style="text-align: center;">総費用</td> <td style="text-align: center;">総便益</td> <td style="text-align: center;">基準年</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(事業全体) 1.6</td> <td style="text-align: center;">(残事業)/(事業全体) 230 / 233億円</td> <td style="text-align: center;">(残事業)/(事業全体) 377 / 377億円</td> <td style="text-align: center;">平成16年</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(残事業) 1.6</td> <td style="text-align: center;">(事業費：197/200億円) 維持管理費：33/33億円</td> <td style="text-align: center;">(走行時間短縮便益：300/300億円) (走行費用減少便益：37/37億円) (交通事故減少便益：40/40億円)</td> <td></td> </tr> </table>	B / C	総費用	総便益	基準年	(事業全体) 1.6	(残事業)/(事業全体) 230 / 233億円	(残事業)/(事業全体) 377 / 377億円	平成16年	(残事業) 1.6	(事業費：197/200億円) 維持管理費：33/33億円	(走行時間短縮便益：300/300億円) (走行費用減少便益：37/37億円) (交通事故減少便益：40/40億円)		
B / C	総費用	総便益	基準年											
(事業全体) 1.6	(残事業)/(事業全体) 230 / 233億円	(残事業)/(事業全体) 377 / 377億円	平成16年											
(残事業) 1.6	(事業費：197/200億円) 維持管理費：33/33億円	(走行時間短縮便益：300/300億円) (走行費用減少便益：37/37億円) (交通事故減少便益：40/40億円)												
事業の効果等 ・個性ある地域の形成（主要な観光地へのアクセス向上が期待される） ・安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる） <div style="text-align: right;">他5項目に該当</div>														
関係する地方公共団体等の意見 大野竹田道路は、沿線地域間の連携・交流や地域活性化等に重要な役割を果たすことが期待されており、竹田市、朝地町、大野町をはじめとする関係2市9町2村の首長及び議長等で構成される豊肥・地域高規格道路建設促進期成会より早期整備の要望を受けている。														
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 並行する国道57号の交通量は年々増加しており、需要が高まっている。														
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成12年度に着工準備に着手し、環境影響評価を手続き進めており、平成16年度は方法書に対する意見を踏まえ、調査項目・手法の決定及び現地調査を行っている。														
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 今後も環境影響評価の手続きを促進し、早期に本格的な着手ができるよう事業を推進する。														
施設の構造や工法の変更等 平面及縦断線形の見直しによる構造物の縮小、ローコストICの採用（ダイヤモンド型からダイヤモンド平面Y型へ）などにより、コスト縮減を図っている。														
対応方針 ：事業継続														
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。														
事業概要図														



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。